

シロクマのクウ

シロクマのクウは、もうすぐ
二さい。きょうもおかあさんと
いっしょに さかなをとる
れんしゅうです。

「あつ、にげられちゃった。ちっとも
うまく いかないなあ。」
「そおっと ちかづいてから
とびこむのよ。」



「ねえ、おかあさんが とってよ。」

「どの こも ニさいに なると、おかあさんと はなれて、ひとりで ぐらすのよ。じぶんで たべものを とれないとこまるでしょう。」

「うん……。わかった。こんどこそ、とって みせるよ。」

つぎのひも、クウは おかあさんと さかなを とりにいきました。

「あつ、あそこに おおきな さかなが いるぞ。それっ！」
しかし、さかなは すぐに にげて しまいました。ちから
いっぱい おいかけますが、ちつとも さかなが つかまり
ません。

なんども なんども とろうと しますが、^{いっ}びきも

つかまえられません。だんだん うでが
大きくなりました。いたく なって

「あーあ……。」

クウは つかれて、とうとう こおりの
こんで しまいました。うえに すわり

しばらくして、クウは
おかあさんが こちらを
みていることに きが つきました。

クウは、しばらく かんがえて
いました。
「よし！」



クウは たちあがると、ねらいを
さだめて、ゆっくりと さかなに
ちかづきました。そして、ちから

いっぱい とびこみました。
ザブーン

クウが にぎった てを ひらいて
みると、なんと ねらった さかなが
はいつて いるでは ありませんか。
「やった、やったよ！」

その ようすを みて、
おかあさんは につこり わらいました。

クウが 一いちにんまえに なるのは、もうすぐです。

